

特集

地域包括ケアシステムの構築

# 「地域づくり」の発想から考える「地域包括ケアシステムの構築」

## 「オール西東京市」で創る新たな地域協働の取り組み

在宅療養連携支援センター「にしわ」 センター長

古澤 香織

高齢社会を迎え、「暮らしを支える医療と介護」、この両方が揃わなければ、最期まで住み慣れた場所で、自分らしく暮らし続けることが難しい時代です。「にしわ」は、医療職や介護職が、良好な連携関係を築き市民の暮らしを支えられるよう、「連携の課題」の解決に向けてお手伝いいたします。



定期的な「フレイルチェック」を開催するまでとなっており、定期的な「フレイルチェック」を定めて、予防の意識を高め、市民自ら行動変容に導く効果が期待されます。

### 専門職だけでは解決しない！ カギは、「地域づくり」

「西東京市在宅療養連携支援センターにしわ」は、在宅医療・介護連携推進事業の一つである。「在宅療養・介護連携に関する相談支援」の取り組みとして、専門職からの相談を受けています。

西東京市における、「にしわ」の役割(図1)は、①在宅療養者に関する専門職からの相談を共に解決すること、②相談から見える医療・介護連携の課題を抽出すること、③医療や介護の専門職の連携をサポートすることです。

役割②から、特に課題と感じていることは、「本人の意向が確認できていない」、「本人の意向や状態に応じた受け皿が少ない」などが挙げられますが、「医療・介護サービスだけでは解決しない問題がある」とも専門職の相談から見える大きな課題と捉えています。



【2つの機能】

- ① 専門職からの相談を解決する機能
- ② 相談から見える医療・介護連携の課題を抽出する機能
- ③ 医療・介護専門職の連携をサポート

図1 西東京市在宅療養連携支援センター「にしわ」の役割



図2 西東京市版「フレイル予防」の取り組み

### 地域と協働する「フレイル予防」 「食支援」の取り組み

西東京市の「地域づくり」の大きな取り組みの一つに、「フレイル予防事業」(図2)があります。「フレイル予防」という言葉は、今でこそ一般的に普及していますが、西東京市では2017年12月に、都内で初めて東京大学と協定を結び、「フレイル予防」に乗り出しました。

定期的な「フレイルチェック」を開催するまでとなっており、定期的な「フレイルチェック」を定めて、予防の意識を高め、市民自ら行動変容に導く効果が期待されます。

また、元氣シニアが、「フレイルサポーター」となり、専門職のフレイルトレーナーと共に、フレイルチェックの実施・運営に携わり、市民への啓発活動を行うことで、元氣シニアの活躍の場づくりにもなっており、今では、「フレイルサポーター」は、110人を超え、60代〜80代までの元氣シニアが、生き生きと活躍しています。

フレイル予防には、「運動・栄養・社会参加」が重要と言われていますが、その理解のために、さまざまな専門職がそれぞれの専門分野で、フレイル予防のミニ講座を行っています。

柔道整復師による、「家庭

「栄養」について、とても重要な位置を占めています。身近に接している専門職、特に生活の支援をしている、ケアマネジャー・介護職は、「栄養」について、とても重要なものがあり、必要量を摂取させたいと理解しているものの、どこに問題点があるか、どのように介入すべきかわからないという課題がありました。

そこで、食環境全体を本人の状態や生活等の多角的視点で評価することができ、「食支援チェックシート」を作成し、ケアマネジャーに記入してもらうことから始めました。



医療 介護	<p>◎専門職による食支援 要介護者の生活のマネジメントの中で「食」に対する専門職の意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■食の改善は機能のみではなく生活全般の改善が必要</li> <li>■ケアマネジャーの栄養や口腔に関するアセスメントの弱さ</li> <li>■気づいた時に適切な専門的指導を受けることができる環境づくり</li> </ul> <p>①チェックシート → 栄養に特化したアセスメント表の作成          ②栄養サポート会議 → 多角的な専門的指導を受けることができる体制          ③嚥下調整食の共通認識 → 多職種へのインフォーマティブな周知方法 (ポスター・クリアファイル)</p>
	<p>◎地域による食支援 軽度・重度状態に合わせた適切な食の提供のしくみを構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■時代の変化に合わせた「市の配食サービス」の意義について再検証の必要</li> <li>■フレイル予防の食事の提供 (民間活用・地域の飲食店の活性化)</li> </ul> <p>食事の提供 → 孤食の解消、低栄養を防ぐ、嚥下困難への対応食、疾病対応食、男の料理教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくり (配達のみかた・会食形式・居場所へのつながり)</li> <li>・フレイル予防のメニューの取り入れ</li> <li>・1日の栄養摂取量のチェック</li> <li>・疾病対応食など介護負担の軽減を図る</li> <li>・民間の食事サービス、商品も併用して1日、1週間の食事量の確保</li> </ul>
地域 行政 民間	<p>「地域包括ケアシステム」をシンプルに!</p> <p>私たちが目指している、「地域包括ケアシステム」の構築は、難しい言葉でわかりにくくなっています。本当は、とてもシンプルなことだと思っています。</p> <p>まず、「あれがない、これがない」から自宅では暮らせないではなく、「この部分をカバーすれば暮らせる」といった思考に転換することが必要です。次に、本</p>
	<p>「地域包括ケアシステム」をシンプルに!</p> <p>人・家族・専門職・地域住民等が強みを活かし、それぞれの役割を担い協働することで、その人らしく暮らすことが実現できる地域になっていくのではないのでしょうか。「地域づくり」の発想が活きてくることを考えています。</p> <p>「どんな状態になっても、住み慣れた場所で、できるだけ長く住み続けることができてまいりま</p>

図3 西東京市の食支援体制の構築

もらうことで、どの部分に問題点があるのか、客観的に捉えることができます。

次に、チェックシートで問題点に気づいたケアマネジャーが、実践的な助言が受けられる「栄養サポート会議」の開催を行いました。医師・歯科医師・薬剤師・管理栄養士・看護師・主任ケアマネジャーが出席し、ケアの問題点についてケアマネジャーに助言を行います。「チェックシート」記入による気づき、「栄養サポート会議」での助言から、必要な支援を検討・実行、その後の状態変化まで追跡・評価した結果、「要介護認定者において、ケアマネジャーが、食支援のニーズに気づき、専門職が具体的な改善策を助言すること

で、栄養改善に関する支援につなげることができるといことがわかりました。

未だ、モデル開催の段階ですが、今後実践につなげるために、「地域における食支援の必要性の共有」や「栄養サポート会議を定期的開催するための体制づくり」(多職種メンバーの確保)、「オンライン環境の整備」(関係機関への周知)等を整備し、多くのケースで導入できるようにしていきたいと考えています。

また、このように要介護認定者においては、「専門職を軸とした食支援」を検討していますが、地域住民・行政・民間を軸にした、「地域による食支援」も併せて進めていくことで、軽度者や重度状態に合わせた適切な食の提供の

### 「地域」で取り組む ACPもワクチン接種も

「どんな状態になっても、住み慣れた場所ですべての長く住み続ける」ためには、自分自身がどのように生きていくのか、予め大切な人に伝えておく必要があると言われています。

西東京市における地域包括ケアシステム構築の中核を担う、「地域包括ケアシステム推進協議会」の中の「市民との協働啓発部会」では、市民に対する「ACP普及の取り組み」を進めてきました。

市民に理解してもらうための方法を専門職・市民が

提供し等、地域・行政の力を集めることで、元気高齢者から軽度・重度の要介護者まで、幅広く柔軟に、「食の支援」が可能になると考え、今後取り組みを進めていきたいと考えています。

この取り組みも、さまざまな立場の人々が「食支援」という目標を持って関わり合う、新たな「地域づくり」と言えるのではないのでしょうか。

や精神的支援の部分も、ご近所付き合いの力でカバーし、「新型コロナウィルスワクチン接種」においては、統括する行政、ワクチンを接種する医療職はもちろん、移動困難者への移送を担う介護職、予約が難しい方の支援をする自治会の方々の活動等、意識せずともさまざまな立場の人々が、関わって支え合っている姿が見られるようになってきました。

このように、医療・介護サービスだけでは対処しきれなかった課題を、地域全体でどうやってカバーしていくのか、柔軟に考え行動する力がこれからも求められていくのではないのでしょうか。

「地域包括ケアシステム」をシンプルに!

人・家族・専門職・地域住民等が強みを活かし、それぞれの役割を担い協働することで、その人らしく暮らすことが実現できる地域になっていくのではないのでしょうか。「地域づくり」の発想が活きてくることを考えています。

「どんな状態になっても、住み慣れた場所で、できるだけ長く住み続けることができてまいりま

**OLYMPUS**  
Your Vision, Our Future

EndoTherapy

Introducer変法をより身近な手技へ

オプチュレータ      一期的ダイレータ  
シース      ボタン      2ショットアンカー

販売名：イディアルシースPEGキット 医療機器番号：22600BZX00409000

Introducer変法胃瘻造設キット

**イディアルシースPEGキット**

1回の内視鏡挿入、経鼻ルートでも造設可能なIntroducer変法による患者様への更なる優しさ、シースを用いたボタン挿入での気腹や胃裂傷リスク軽減による安全性の向上に加え、IDEALシースPEGキットは簡便性の向上を目指した新しいIntroducer変法として誕生しました。

製造販売元 / 秋田住友ベーク株式会社      販売元 / オリジナル株式会社

**IDEAL**

www.olympus.co.jp